

入浴コースのご案内〔全4通り〕



1 2階 特別浴室

1日8組限定 事前予約制
089-932-1126

大人：1,690円、小人：830円 + 1組2,040円〔利用時間 1時間30分以内〕

6～22時(札止20時40分)

内容：2階特別浴室 1階浴室 貸浴衣 貸タオル
貸バスタオル 貸湯帳 お茶 お茶菓子

道後温泉本館にある日本で唯一の皇室専用浴室「又新殿」。その浴室を再現した飛鳥乃湯泉の特別浴室。古代、入浴時に身に着けたといわれる「湯帳」を着て、当時の入浴を体験することができます。



2 2階 個室

大人：1,690円、小人：830円〔利用時間 1時間30分以内〕

6～22時(札止21時)

内容：2階個室休憩室 1階浴室 貸浴衣
貸タオル お茶 お茶菓子

5つの個室は、それぞれ道後温泉の伝説をテーマに装飾され、愛媛を代表する伝統工芸の技術と匠の技を間近でご覧いただけます。1階浴室で疲れを癒した後は、個室の休憩室でゆったりとお寛ぎください。



3 2階 大広間

大人：1,280円、小人：630円〔利用時間 1時間30分以内〕

6～22時(札止21時)

内容：2階大広間休憩室 1階浴室 貸浴衣
お茶 お茶菓子

60畳の広さを誇る大広間休憩室は、聖徳太子が「寿国(理想の国)」と讃えた、道後温泉の情景を表現しています。開放感のある休憩室でゆったりとお寛ぎください。



4 1階 浴室

大人：610円、小人：300円〔利用時間 1時間30分以内〕

6～23時(札止22時30分)

内容：1階浴室 (シャンプー・コンディショナー・ボディソープ)

万葉歌人・山部赤人と額田王の道後にまつわる和歌をテーマに、かつてないほどの大きな陶板壁画で囲まれた浴室は、太古の道後に入り込んだような気分で道後の湯を楽しむことができます。また、道後温泉本館にはない露天風呂もあります。

※ 大人12歳以上 小人2歳以上12歳未満

道後までのアクセス

■ 松山空港から

松山空港リムジンバス道後温泉駅前行きで約40分
タクシーで約30分 小型2,660円、中型2,990円

■ JR松山駅から

伊予鉄道電停 JR松山駅より、市内電車 道後温泉行きで約25分
タクシーで約15分 小型1,380円、中型1,550円

■ 松山市駅から

伊予鉄道電停 松山市駅より、市内電車 道後温泉行きで約20分
タクシーで約15分 小型1,140円、中型1,230円

■ 松山観光港から

松山観光港リムジンバス道後温泉駅前行きで約43分
タクシーで約25分 小型2,900円、中型3,310円

■ 三津浜港から

三津浜港から伊予鉄バス三津・吉田線で約35分、松山市駅から市内電車 道後温泉行きに乗り換え、約20分
タクシーで約25分 小型2,500円、中型2,830円

※四国運輸局が公示した公定幅運賃の上限運賃を基に距離制運賃で計算しています。
実際の料金は、時間距離併用運賃のため交通事情により多少異なることがあります。

〈お問い合わせ〉

松山市道後温泉別館指定管理者 道後温泉コンソーシアム

〒790-0842 愛媛県松山市道後湯之町19-22

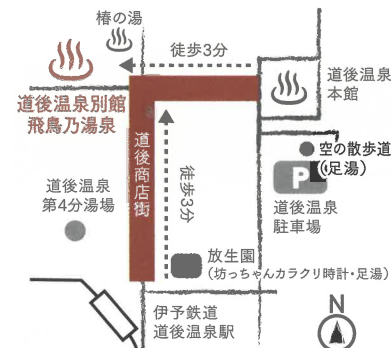
TEL 089-932-1126 <https://dogo.jp>

松山市道後温泉事務所 TEL 089-921-5141	道後観光案内所 TEL 089-921-3708
松山観光コンベンション協会 TEL 089-935-7511	道後温泉旅館協同組合 TEL 089-943-8342

【駐車場】松山市営道後温泉駐車場をご利用ください。最初の1時間まで無料。
(駐車券を受付までご持参ください)

道後温泉公式サイト

<https://dogo.jp>



GREEN PRINTING JPPI
P-B10260
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C006732
FSC®森林認証紙を使用しています。



道後温泉別館 ～あすかのゆ～
飛鳥乃湯泉
法隆寺系主の書



～道後の新たな幕開け～

新たな温泉文化を発信する拠点誕生
飛鳥時代をイメージした湯屋

道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 施設コンセプト

太古の道後

道後温泉の歴史の奥行きを伝える

温泉による癒し

無加温・無加水
源泉かけ流しの
温泉による癒し



感性の刺激

愛媛の伝統工芸を
活かしたアートによる
感性の刺激

3000年の歴史を持ち、日本最古の温泉ともいわれる道後温泉。その奥深い歴史には数々の物語が残ります。その物語を愛媛が誇る伝統工芸や匠の技で表現。上質な温泉の癒やしと共に感性を刺激する作品をお楽しみください。

1926～
昭和

1912～
大正

1868～
明治

1603～
江戸

1568～
安土・桃山

1336～
室町

1185～
鎌倉

592～
飛鳥

710～
奈良

794～
平安

特徴1 泉質

20℃から55℃の温度が異なる18本の源泉から汲み上げた湯を浴槽へ送る前に混ぜ合わせ、適温に調整。加温も加水もしていないアルカリ性単純泉の湯質は肌に優しく、湯治や美容に最適。

特徴2 外観

西暦596年聖徳太子の来浴や661年斉明天皇の行幸などの伝説が残る飛鳥時代の建築様式を取り入れた特徴的な外観。

特徴3 中庭

中庭は、聖徳太子が詠った「椿の森」をイメージし、椿が生い茂っている当時の様子を再現。

特徴4 内観

1階は開放的な大浴場と露天風呂。2階の特別浴室は本館の皇室専用浴室の又新殿を再現し、「湯帳」を着て古来の入浴体験ができ、家族風呂の利用が可能。

※「湯帳」とは「ユカタビラ」とも言い、一定以上の身分の人が身に着けたものと考えられ、ユカタの原形となったものです。

【白鷺伝説】

昔々のこと、足を痛めた白鷺が舞い下り、岩の間から流れ出る湯に浸していたところ、やがて傷は癒えて、飛び立っていきました。それを見た村人が入浴するようにになったことが、道後温泉の発見とされています。



【玉の石伝説】

道後温泉は大国主命と少彦名命の神話にも現れます。大国主命と少彦名命が伊予の国を訪れた際、重病にかかった少彦名命を大国主命が掌にのせて道後温泉の湯で温めたところ、たちまち元気になって、石の上で踊りだしたとされています。その石は、「玉の石」と呼ばれ、本館北側に保存されています。



太古

【聖徳太子の来浴】

西暦596年、道後を訪れた聖徳太子は明媚な風光と良質の温泉を褒めたたえ、湯の岡に温泉の碑を建立されたと伝わります。当時は椿が美しく生い茂り、霊妙な温泉が平等に恩沢を施す様はまるで寿国(理想の国)のようだと讃えています。



【万葉歌人 山部赤人、額田王の歌】

道後は奈良時代に編纂された日本最古の歌集「万葉集」にも登場します。額田王は、女性の帝・斉明天皇が熱田津(今の松山市)から瀬戸内の海へこぎ出そうとする様を詠まれました。山部赤人は、射挾庭の岡に立ち、伊予の高嶺の情景を眺めながら、この道後の地が遠い末の世まで神々しくなるだろうと詠まれました。

【源氏物語と伊予の湯桁】

平安時代、道後温泉には、たくさんの湯桁が並んでいました。数が多いものの例えとして「伊予の湯桁」という表現が使われ、紫式部が書いた源氏物語にもその表現が記されています。

【道後温泉本館改築】

1894年、伊佐庭如矢町長は、「どうせやるなら、他所(よそ)がまねできないものを作ってこそ、100年先までモノを言う」との熱い思いで、本館神の湯棟を改築しました。





①ゼオライト和紙

山門をイメージしたシェードは空気を浄化する和紙「ゼオライト和紙」を用いています。繊細な糸を一本一本手で編みこんだ枠で椿(こうぞ)を漉き、透け感のある清らかな和紙を制作しました。また、平面だった和紙から、立体的で曲面を持った、これまでにない新しい和紙の表現に挑戦しています。



②伊予絋

浴室にかかる暖簾は日本3大絋のひとつ伊予絋です。一束一束手作業で縦糸と横糸を染め分け昔ながらの手作業で織り上げ、その糸が組み合わさる色の濃淡で湯けむりに浮かぶ椿の文様を表しています。かすったような文様が懐かしい風合いを持つ愛媛・松山ならではの織物です。



③和釘

和釘は千年もの長い年月にも耐えられ、伝統的な建築物には欠かせません。世界遺産・薬師寺西塔や松山城の再建等にも用いられた伝統の「和釘」を一本ずつ打ち込み、力強い象徴的な湯玉をお客様をお迎えします。



④砥部焼

職人が独自に生み出したブラッシング技法で、様々な色を丁寧にたたきながら絶妙な色を作り出します。砥部焼として最大級の陶板壁面に囲まれ、湯船につかりながら道後温泉にまつわる和歌の風景を楽しむことができます。また、壁画を背景に砥部焼の絵が動き出す映像演出もお楽しみいただけます。



⑥菊間瓦

独特のいぶし銀が美しい菊間瓦の職人が、鬼瓦のルーツである鷗尾(しび)をモチーフに行燈を制作しました。鷗尾は水面に尾を出した魚を現し火除けとして古来の建築物に飾られていました。道後温泉にまつわる和歌の風景を瓦に掘り込み、優しい自然に癒されながら、当館の屋根を飾る鷗尾と行燈が建物を守ります。



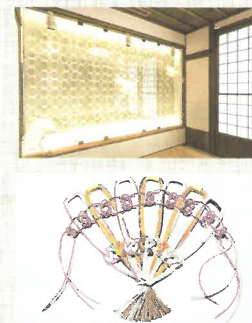
⑦伊予簀

簀とは細い竹ひごを編んで作られた、和紙を漉くためのものです。和紙に凹凸が出ないように寸分の狂いなく平滑に編まれた簀を用いて御簾を制作しました。美しい透け感のある御簾はまるで竹でできたレースのような風合いで、かつて天皇がお入りになられたような幽玄な雰囲気でお風呂をお楽しみいただけます。



⑧伊予水引

繊細な水引で清らかな白鷺伝説の様子を描き出します。淡路結びという一番基本的な技を一本ずつ丁寧に結び、非常に繊細な白鷺や湯文様を作り出しています。この水引細工で皆さまの平穏無事を祈願し、道後温泉の思い出に結び付くよう願いを込めて制作しました。



⑨筒描染

10メートルもの長い一枚の布に糊を置いて、大国主命・少彦名命の伝説を裏表なく絵が続くように美しく染め上げました。美しい情景を表した色彩や神様の繊細な表情を丁寧に描き上げた染物をお楽しみください。



⑪桜井漆器

様々な地域から技術を学び発展した桜井漆器は、伝統的な素材に囚われず、透明なアクリルを素材としています。繊細な蒔絵とアクリルのきらめきで、太古の天皇たちが道後で味わった情景が湯のさざ波の中に浮かび上がっています。



⑫西条だんじり彫刻

人・神獣・動植物が道後温泉でにぎわう情景を、愛媛・西条の夜を彩るだんじり彫刻の技法で丹念にかつ大胆に彫り上げました。100種類もの彫刻刀を使いわけ、わずか数センチの木材でも奥行きを感じさせる技術は目を見張るものがあります。また、西条だんじりにはない立体的な木彫など新たな表現にも挑戦しています。



⑬ギルディング和紙

古くは平安時代に記録がある国の伝統工芸品「大洲和紙」と、金属箔を使用した「ギルディング加工」のコラボレーションです。このギルディング和紙を用いてシェードや照明を制作しました。手漉き和紙の透かし模様と金属箔の模様が、光の変化で様々な表情を見せ、華やかな寿国の様子を描き出します。



⑭伊予竹細工

聖徳太子が伝えたと言われる、職人の手の感覚のみが頼りの「やちゃら編み」で道後温泉のシンボルである湯玉をモチーフにした行燈を制作しました。穏やかに揺らめく光が湯上りの心をさらに癒します。

